

Vertical text on the right side of the banner area, including the newspaper's name and publication details.

迎春の感 (Sensations of Welcoming Spring)

Main body of the '迎春の感' article, discussing the year's progress and future prospects.

常磐新聞社 (Jozei Shimbun)

寅年を迎へた小名濱町 (Welcoming the Tiger Year in Onomichi)

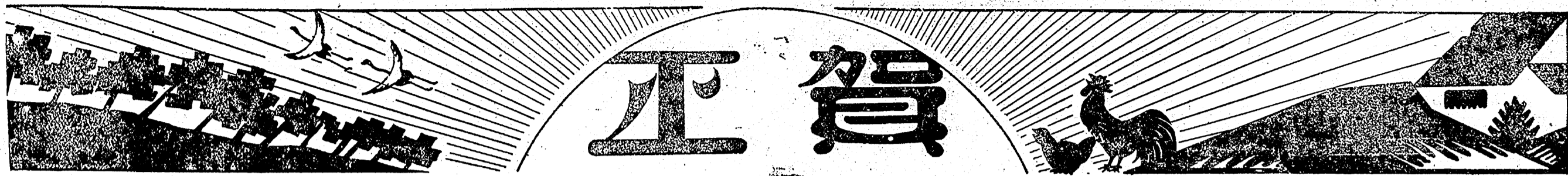
Main body of the '寅年を迎へた小名濱町' article, detailing local news and community events.

年賀郵便特別取扱 (Special Handling of New Year Post)

Text block providing information about special handling of New Year post, including dates and procedures.

謹賀戦勝の新年 (Solemn Greetings for the New Year of Victory in War)

Table listing names of officials and members of the Onomichi Town Council, organized by department and role.



### 年頭の辭

小名濱町長 小野晋平



昭和十三年の新春を迎ふるに當り、聖壽の無窮を壽ぎ奉るに共に、皇軍の武運長久を祈り、時局の重大性に鑑み國民精神總動員の趣旨に則り、舉國一致、盡忠報國の念を新にし、堅忍持久、時難を克服し、以て、皇運を扶翼し奉り、國威を中外に宣揚する國民の覺悟を堅ふんとするものであります。

今次事變の勃發以來、我が將兵が、北支、中支南支の戰場に於て、日々世界を驚かしつつある忠勇義烈の行動は、實に三千年來鍛錬せられたる我が國民性が、國難に遭遇して、その獨特の光輝を放ちたるものであります。萬邦無比の日本精神のため世界に向つて萬丈の氣を吐いたものと信じます。私は我が軍の將兵の忠勇義烈なる行動に關し、日々戰場より傳へらる、數々の美談に接する時、今更ながら、日本國民として生を此の世に享けたることの誇りを新に感ずると共に萬邦無比の日本精神を代々に培つて之を吾々現代の國民の血と魂とに根強く植付けてくれた吾々の祖先の遺業に對し限りなき感謝の意を禁ずることが出来ぬのであります。之と同時に吾々は、我々の祖先の遺業に酬ゆる爲め、祖先が吾々に遺した光輝ある日本帝國の歴史に對し、祖先に恥ぢざる吾々の奮闘により、更に一層輝かしき歴史の幾頁を加へ此の誇るべき國民性を更に一層立派に培つて之を後世の國民に継がねばならぬ重大なる責任を擔ふ事を痛感するものであります。

要するに今回の戦は、政府のみの戦でもなければ、陸海軍のみの戦でもない。實に神武建國の大理想である八紘一宇、人類親和の新たなる世界を實現するが爲めの日本國民全体の戦であります。現在の世界不安の最大原因が、國際間に於ける資源の配分に伴ふ發生する人類大多數の窮乏と其の生活の窮乏より起る不平不満に乗じて各國に行はるる赤化革命の策動とに存することは、恐らく何人も認めることの出来る事實でありまして、この世界不安から人類を解放する唯一の大道は各國間の經濟關係を國際正義の上に再建設し、全世界の土地、資本、勞力が人類の生活安定の爲めに總動員せらるる様世界を指導する外ないのであります。この世界再建の指導原理を提げて獨り東洋のみならず、全世界の排他思想、赤化思想と戦ふことが即ち、日本國民の道義的使命であります。而して今回の戦は、即ち日本が支那に於ける排他的、赤化的勢力を一掃し、八紘一宇、人類親和の大理想を全世界に實現すべき道義的、歴史的の使命に向つて、正にその第一歩を踏出したのであります。

然し乍ら私は此處に於て反面一つの大きな考慮を要するものがあるのであります。それは、謙抑節制、自ら戒備省察する所なげればならぬことであり、私は軍中、舊年十二月何日かの東日新聞「日々だより」に於て、徳富蘇峯氏の「優越感と優越的態度」の隨筆を讀んだのであるが、同氏は冒頭に於て斯く書いて居る。

皇道を東亞に宣揚するに際し、第一に戒むべきは優越的態度である、第二に戒むべきは、優越的態度である、第三に戒むべきは、優越的態度である、若し萬一此の態度も我が東亞の諸民族、諸國民に臨むが如きは、皇道の宣揚は愚ろか、皇道の閉塞となり、延いては我が皇徳を冒瀆し奉る惡結果をきたす可きや斯く乎として疑を容れない云々と。

私も之に對して大いに感を得るものがあります。勝に乘じて内に省みざるは甚しき危殆を伴ふものであります。獨り國家國際の問題のみでなく、之れは大いに吟味すべき謙言であると信じます。今や本町は工場誘致に、上水道施設に、其の他各種の町施設經營に於て極めて順調なる運びをたどりつつあるこの時に當り、更に一層の緊張を以て、本町百年の大計を樹て、以て大小名濱の建設の上に誤りなきを、理事者として一言、町民各位に誓つて歳旦の辭に代ふる次第であります。

昭和十三年一月一日

く何人も認めることの出来る事實でありまして、この世界不安から人類を解放する唯一の大道は各國間の經濟關係を國際正義の上に再建設し、全世界の土地、資本、勞力が人類の生活安定の爲めに總動員せらるる様世界を指導する外ないのであります。この世界再建の指導原理を提げて獨り東洋のみならず、全世界の排他思想、赤化思想と戦ふことが即ち、日本國民の道義的使命であります。而して今回の戦は、即ち日本が支那に於ける排他的、赤化的勢力を一掃し、八紘一宇、人類親和の大理想を全世界に實現すべき道義的、歴史的の使命に向つて、正にその第一歩を踏出したのであります。

然し乍ら私は此處に於て反面一つの大きな考慮を要するものがあるのであります。それは、謙抑節制、自ら戒備省察する所なげればならぬことであり、私は軍中、舊年十二月何日かの東日新聞「日々だより」に於て、徳富蘇峯氏の「優越感と優越的態度」の隨筆を讀んだのであるが、同氏は冒頭に於て斯く書いて居る。

皇道を東亞に宣揚するに際し、第一に戒むべきは優越的態度である、第二に戒むべきは、優越的態度である、第三に戒むべきは、優越的態度である、若し萬一此の態度も我が東亞の諸民族、諸國民に臨むが如きは、皇道の宣揚は愚ろか、皇道の閉塞となり、延いては我が皇徳を冒瀆し奉る惡結果をきたす可きや斯く乎として疑を容れない云々と。

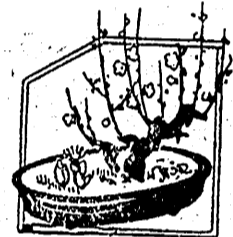
私も之に對して大いに感を得るものがあります。勝に乘じて内に省みざるは甚しき危殆を伴ふものであります。獨り國家國際の問題のみでなく、之れは大いに吟味すべき謙言であると信じます。今や本町は工場誘致に、上水道施設に、其の他各種の町施設經營に於て極めて順調なる運びをたどりつつあるこの時に當り、更に一層の緊張を以て、本町百年の大計を樹て、以て大小名濱の建設の上に誤りなきを、理事者として一言、町民各位に誓つて歳旦の辭に代ふる次第であります。

昭和十三年一月一日

標を置き組合の事業として精神してゐる。

### 生樽製造

標を置き組合の事業として精神してゐる。



小名濱町  
第一區長 小野倉之助  
第二區長 立花秀吉  
第三區長 岡山重喜  
第四區長 鈴木定太郎

日本水産工業株式會社  
小名濱工場  
主任 秋山金作  
遠藤龜次郎  
大遠藤進一  
大山重雄

小名濱魚糧株式會社  
主任 山下亨  
山田

小名濱運送株式會社  
社長 平澤久次郎  
常務 西丸猛  
會計主任 田敏治  
庶務主任 野口源太郎

小名濱水産株式會社  
常務 佐藤作平

小名濱礦油株式會社  
常務 佐藤作平

平製氷株式會社  
専務 松本一郎

磐城海岸軌道株式會社  
支配人 西丸猛

株式會社亀井商店  
小名濱事業所

磐城水産工業株式會社  
社長 小野晋平  
専務 福尾伊太郎

日本水素工業株式會社  
技師長 杉原精

小名濱郵便局長 鈴木忠亮

小名濱信用組合  
組合長 長瀬金右門  
主事 三浦五緑

小名濱海産商組合  
組合長 小野豊次  
副 馬上一  
計 後田義之助  
理事 立花新太郎  
星野熊吉  
比佐勇

小名濱海産物卸商組合  
理事 金成利惣太  
理事 田中權次郎  
理事 小島源七  
理事 丹由之助  
菅原勳

小名濱海産物加工品組合  
組合長 伊藤三男

七木請負業 三崎組 太田勝康

小名濱登記所  
所長 小澤四郎  
司法書士 金澤勉  
全 上遠野新重郎

磐城座  
小名濱町 磐城座  
錦村 錦劇場  
支配人 小野直千賀

清水屋漁業部  
小野禮一  
齋藤昌秀  
鈴木平九郎

北東漁業株式會社  
城十郎  
白井四郎

佐川漁業部 佐川庄助  
鮮魚仲買人 馬上一  
鈴木榮

小名川衆雄  
大平勳

關彰油店小名濱支店  
方面委員 高木忠次

磐城無盡株式會社  
小名濱出張所長 小川爲八郎

郡山無盡株式會社  
小名濱出張所長 黒田秀雄

高木忠次  
草野良太郎  
金成屋洋品店  
加藤屋百貨店  
佐藤政治

中村瀧治  
人事周旋業 實屋小野泰次郎  
自性院 竹村智蓮  
心光寺 狩野隆察

木田熊太郎  
内山製板所 内山治七

二本松電気株式會社  
小名濱支店長 初川茂藏  
濱屋漁業部 比佐勇





平市十五丁目 諸橋久太郎 諸橋元三郎 平市十五丁目 電話九・九九	平市十五丁目 平病院 院長醫學博士 鈴木定藏 電話六四一	平市五丁目 磐城建物株式會社 電話六六六	平市五丁目 鹽屋山崎合名會社 平市土橋通り 電話十番	平市五丁目 平運輸株式會社	平市驛前 酒井伴城 電話六六一	平市田町 野崎自動車合資會社 電話三四〇三三	平市四丁目 平電力株式會社 電話二九六番	平市四丁目 關内藥局 電話四〇番	西山惠一 山田文一 平電氣鑄鋼所 山田麻袋工場												
諸橋久太郎 諸橋元三郎 平市十五丁目 電話九・九九	衆議院議員 比佐昌平	衆議院議員 星一	縣會議員 關内正一	縣會議員 野崎滿藏	縣會議員 蓮沼龍輔	縣會議員 井上茂作	縣會議員 小田吉治	縣會議員 石城郡銀行組合	縣會議員 古河好間鑛業所	町村長會 石城支會	石城郡内各學校長會	平藝妓屋組合	平料理屋組合	好會議員 叶多清	平市會議員 多田井笑次郎	平市會議員 酒井清	平市會議員 鈴木彌太郎				
平市五丁目 山野邊藥局 藥劑師 山野邊東次郎	平市三丁目 大黑屋勝次商店 電話一六六	平市三丁目 家具漆器丸ほん 電話二五九番	平市二丁目 大一屋商店 電話一三	平市四丁目 鶴屋商店 電話百四十四番	マルトモ書局 電話三四四番	マルトモ運動具店 電話二四四番	マルトモ食堂 電話二二三番	なかや洋服店 平市三丁目 電話二三	平三業保健組合	平西洋料理業組合	平産婆學校 校長 清野きよ 平市南町電話三〇七										
石城郡好間村 好間鑛業所 電話平一・二三番	日本曹達株式會社 小田鑛業所 所長 三谷省吾	白水炭礦會	大日本電力平營業所 平市五丁目(電一五四)	片倉磐城製絲株式會社 石城郡平市三倉八	平市會新興會一同	萩原義雄	吉田五平	藤田榮助	青沼鋒太郎 平市長 伊藤秀吉	西野源次郎 酒井寅之助 草野常彌 四家糸治	石城中小互融會 事務理事 吉田昌弘 平市才地小路 電話五五五	堀江工業株式會社 電話五一九番	磐城無盡會社								
植田町役場 町長 古川傳七 助役 北郷繁	植田電燈株式會社 社長 金成通 技師長 成清末吉 庶務 國安稔之助	鷺清昇	鈴木眼科醫院	森合齒科醫院	坂本龜太郎	秋山製材所	植田小學校 校長 鈴木佐忠	土負業木成瀨巴三	山田村安島重三郎	小濱探鮑組合 渡邊國之助 豐田丑松	海産物商 柳葉藤八	小名濱町 豐田	花籃製造元 高木嘉一郎	尾城寫真館	森口醫院	耳鼻咽喉科專門 舟田義孝	產婦人科專門 森口德郎	北村組	西山商會出張所 福島縣平市白銀町十番地 本社 東京市芝區西久保町二二		
久保田眞 久保田イ 白石藥舖	資生堂	幸樂鈴木昇七	產婆 近藤かぬ	洋服店 小松正治	味噌醬油 佐々木齒科醫院	泉村 佐々木齒科醫院	醫師 石井正	醫師 草野道平	齒科醫師 福尾清利	醫師 宮津操	鈴木寫真館	樋口吳服店	カンエー 木上與八	御旅館吉田屋 小松力	清世界 清水屋	齒科醫師 鈴木正	陸軍指定工場主 倉兼常八	九八鐵工場 木田磐松	齒科醫師 會田亮	小瀧渡邊亮	常磐新聞社 伊藤越洋次